

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム

2014 本会議

ブルガリア大会

[第3次企画書]

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム学生本部

2014年5月12日

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 2014 本会議
総合企画書[第3次 2014.5.12 版]

目次

- 1、会頭挨拶……p.3
- 2、設立趣意……p.4
- 3、組織理念・ミッション……p.6
- 4、2014 本会議開催概要……p.7
 - ・開催地
 - ・主催者
 - ・期間
 - ・参加国
 - ・参加予定人数
 - ・予算
 - ・活動内容
- 5、議題と開催プログラム……p.9
- 6、セッション概要……p.13
- 7、体制（協賛・助成・特別後援・協力・後援）……p.17
- 8、2014 年度グローバル・ネクストリーダーズフォーラム学生本部 役職一覧……p.18
- 9、連絡先一覧……p.19

1. 会頭挨拶

平素より、グローバル・ネクストリーダーズフォーラム（以下、GNLF）にご支援とご指導をいただき、誠にありがとうございます。GNLFは2011年に東京において第一回本会議、2012年にチュニジアにおいて第二回本会議、そして2013年に再び東京において第三回本会議を開催し、全て成功裏に終えて参りました。ご協力下さったすべての方々に心より感謝申し上げます。そしてこの度2014年度の本会議の開催に向けて新体制が発足し、私、高橋遼平がGNLF2014の会頭として任に当たることが決定致しました。1年間、チームを率いて活動して参ります。

さて、今年度で四回目の本会議を迎えるGNLFですが、海外開催という意味においては一昨年度のチュニジア開催に引き続き二度目となります。しかし、同じ二度目であっても、海外開催の二度目というものは日本開催のそれとは大きく異なる意味を持ちます。なぜなら、日本との本会議の共催の下、将来的に世界各地で活動する各国委員会が形成され、そこで学んだノウハウが現地の国内活動に生かされていくからです。一昨年は初の海外開催を実現にこぎつけることが最重要課題であったのに対し、今年は将来まで見据えた上でブルガリア委員会と協同で準備を進めていくことが求められています。ブルガリア委員会に一つ一つノウハウを伝え、意見をぶつけ合って本会議の準備を進める、それには多くの困難を伴うかもしれませんが、将来の世界各地での活動に繋がることを考えながら、日々身の引き締まる思いで活動に取り組んでおります。

そして、私たちGNLFの最終目標は本会議の開催ではありません。将来リーダーとなりうる学生がグローバル・リーダーへと成長できる場を提供し、その後彼らが互いの協力のもとで、良好な国家間の関係を構築し、国際的な課題へ対処することこそ、見失ってはいけない目標であり、本会議と同時にこの目標に向けての意識を持ち続けなければなりません。一見あまりに遠大に見える目標ですが、だからこそ毎年度の漸進的な進歩が必要であり、2014年度はアラムナイ制度の整備から着手することに致しました。Human NetworkはGNLFが掲げる理念の一つではありますが、私たち自身も一週間の本会議でこれが十分に醸成できるとは考えておりません。だからこそ、アラムナイ制度の確立が必須なのであり、今年度はその第一歩を踏み出したいと考えております。

GNLFはまだまだ未熟な団体です。最終目標まではほど遠く、毎年の歩みも小さなものかもしれません。しかし、その小さな歩みを進めていこうという思いこそが、小さな学生団体に秘められた大きな可能性の実現に繋がると私たちは確信しております。今年度も皆様の最大限のご支援・ご指導をいただけますよう心よりお願い申し上げます。

2013年11月8日

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 学生本部

2014年度 会頭 高橋 遼平
(東京大学教養学部2年(当時))

2. 設立趣意

社会のフラット化が進展するグローバリゼーションにおいて、文化や習慣、宗教などの「差異」は強みになる一方で、これまでになく人々の間に摩擦を引き起こしています。差異を前提に、互いを理解し尊重する。それこそグローバル社会において最も重要な原則であり、また多様性を増す国内社会においても必要な姿勢ではないでしょうか。また、冷戦の崩壊とグローバリゼーションの進展で、あらゆる国家が他国との関係を抜きに存在し得ない時代が到来し、良好な外交関係を可能な限り多くの国との間に築くことの重要性は、いかなる国にとっても増しています。

私たちは、「国と国との関係も、人と人との関係から始まる」という信条のもと、多様性を増す国際社会において互いを理解し尊重する姿勢を持ち、自国を代表して諸外国と良好な関係を築く役割を果たすことのできる人間こそ、これからの日本に、そして世界各国に必要なのではないかと、そしてそのような人間こそ 21 世紀にふさわしい「グローバル・リーダー」なのではないかと考えるに至りました。

グローバル・リーダーは単にスキルを持った人間のことを指すではありません。差異を前提に互いを理解し尊重する態度や、急激な環境変化の中で柔軟に問題に対処する姿勢といった人格を含む、人間性そのものなのです。

ですからグローバル・リーダーを一朝一夕に形成することはできません。それは長期的な人間関係や人格形成・学習プロセスを通じて形成される人間性だからです。そこで私たちは、将来の世界を担う可能性と意思を持つ大学生が一堂に会する国際会議を「起点」として、数年～数十年の長きにわたりプログラムへ関与することを通じて一人ひとりがグローバル・リーダーへと自律的に成長できるような場を、そして彼らが人間的な絆を深めてゆくことのできるような場を創造することを決意しました。

私たちがそのような場の創造に取り組むに際して基軸としたのは、「一対一ではなく多国間のプロジェクトであること」「一会議で終わらない長期的なプロジェクトであること」「これまでにない国家間関係を積極的に構築するプロジェクトであること」という 3 つのコンセプトです。

プロジェクトを多国間で行うことは多様性を体感する上で不可欠であり、前述の通りその長期性も欠かすことができません。加えて、これまでの外交的枠組みが徐々に通用しなくなる中で、従来は比較的疎遠だった、あるいは一方的であった国家間関係を、相互の理解と信頼に基づいた対等で双方向的な関係に進化させることの必要性から、新たな関係を積極的に構築する意義は大きいのではないかと考えました。

それでは日本人が、そして日本が、この国際的なプラットフォームを主導する意義とは何でしょうか。

我が国では国際的プレゼンスの低下が問題となり、日本の将来について悲観的な声が蔓延しています。日本人は「外交下手」とも「内向き」とも評されます。さらに、東日本大

震災で露呈したのは「世界に対して、必要な情報を正確に発信する力」「世界の言論と行動をリードし、よりよい国際社会を構築して行くリーダーシップ」の不足でした。各界において国を背負い国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成が、最も急務になっている国こそ日本だと言えるでしょう。そのような意味でこのプロジェクトを日本人自身が推し進める意義は大きいはずです。

しかしそれだけではありません。日本は世界に先駆けて第二次世界大戦後の高度成長を成し遂げた国であり、また世界に先駆けて金融危機や超高齢化を経験している「課題先進国」なのです。日本が直面してきた、そして直面している課題の多くはこれから世界が直面する課題です。そこで日本の知見や経験を大いに生かすべきではないでしょうか。そのような意味でこの「日本発のプラットフォーム」は日本にとっても、世界各国にとっても大きな意義があるものだといえるのです。

私たちはこの長期的な場において、各国を代表して参加する人々に対し「経験」「知見」「人的ネットワーク」を提供し、一人ひとりが自律的に成長できる環境の整備に尽力します。そして世界各国で求められているグローバル・リーダー育成の一端を担い、将来的にリーダー達の水平な世界的ネットワークを築き、ひいては多様な国々同士の良好な関係に結実することを目指します。

2010年7月1日

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム
ファウンダー 森下 裕介 (東京大学教養学部2年(当時))

(2013年1月1日 一部改訂)

3. 組織理念・ミッション

<組織理念>

「グローバル・ネクストリーダーズフォーラムは、将来リーダーとなりうる学生がグローバル・リーダーへと成長できる場を提供し、その後彼らが互いの協力のもとで、良好な国家間の関係を構築し、国際的な課題へ対処することを目指す団体である。」

<ミッション>

当団体は、前条の理念を実現するため、以下の三つを提供することをミッションとする。

- *本会議などのリアルなプラットフォームや、オンラインのプラットフォーム
- *本会議のプログラムを含む、学習・議論・体験のための多角的なコンテンツ
- *参加者や支援者の世代・国家を超えたネットワーク

2012年12月

森下 裕介 (GNLF ファウンダー)

向山 直佑 (GNLF2013 会頭)

4. 2014 本会議 開催概要

(すべて 2014 年 5 月 12 日現在のものです、変更になることがあります)

開催地

2014 本会議はブルガリアでの開催を予定しております。

主催

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 学生本部

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム ブルガリア委員会

期間 (各国から招聘するのは本会議のみです)

2014 年(平成 26 年)8 月 17 日から 8 月 24 日までの 8 日間の開催を予定しております。

参加予定国 (五十音)

インド/インドネシア/エジプト/キルギス/スイス/チュニジア/日本/ブラジル/ブルガリア(ホスト国)/南アフリカ/メキシコ

参加予定人数

日本学生 17 名 (本部運営委員 13 名を含む)

ブルガリア学生 27 名 (委員会運営委員 15 名を含む) ブルガリア教員 4 名

各国学生 2 名 各国教員 1 名 ※日本、ブルガリアの学生は除く

合計 75 名

予算

本企画による予算とは、本会議開催に伴う予算のことを指し、春合宿および直前合宿については、参加者の自己負担により開催するものとします。予算については別途予算書を添付させていただきます。主催者たる会議運営本部は、開催期間中の日本国内における一切の諸費用を負担します。

海外からの参加者も費用の一部を負担するが、負担が困難な場合は駐日大使館等が負担に協力します。

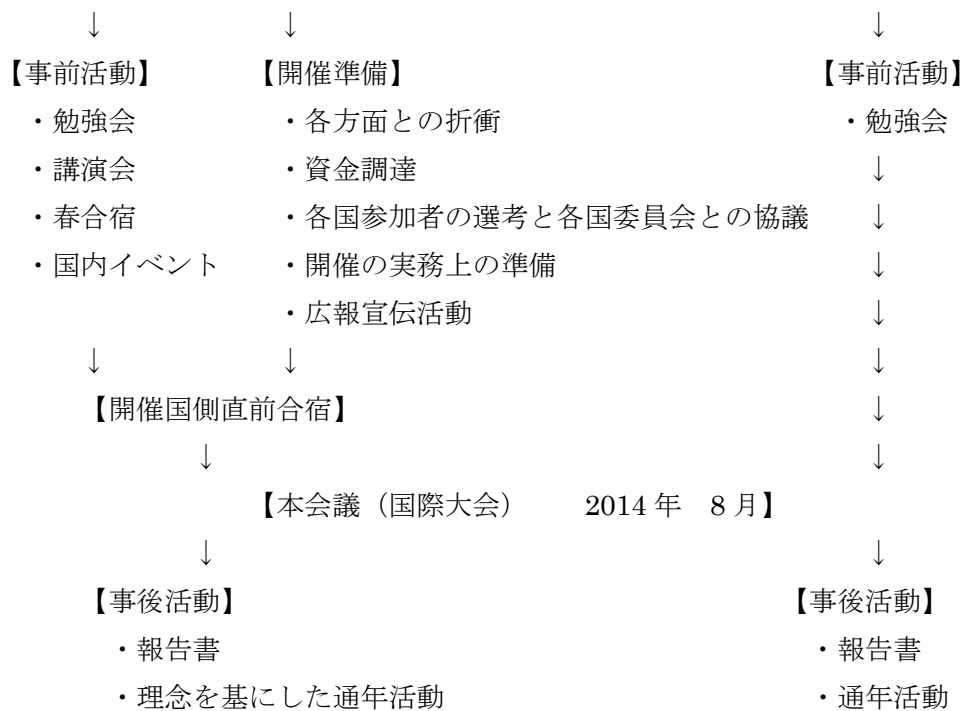
本部負担分の費用は、以下の方法により資金調達を行います。

- (1)財団・大学等による助成
- (2)企業によるパートナーシップ協賛
- (3)個人賛助会員の会費
- (4)各国学生の負担 (日本国内組・海外組)

活動内容

<本部、委員会及び開催国側参加者>

<各国参加者>



5. 議題と開催プログラム

<プログラムの方針>

本会議には、世界各地域から様々な文化や価値観を持った学生が集まり、1週間ともに過ごします。そのため、プログラムにおいても、見解が参加者によって異なったり、ときには参加者同士で意見の対立があるかもしれません。

そのような状況の中、「すべての参加者が受け入れられるような考え方を提供する、たどり着けるように誘導する」ということは、見解などの違いを乗り越えるための1つの有効な手段であるかもしれません。

しかし、そのように一方的に考え方を参加者に与えることが目標ではありません。

むしろ、参加者に対し、「同じ土俵の上で意見交換できるような場」と、「互いが異なった見解・意見を持っていることを受け、その違いを乗り越えられるような十分な時間」を提供することを目指しています。

このような方針とGNLFの理念を考慮した上で、2014年本会議のプログラムを、ブルガリアの委員会と共同で策定いたしました。

<議題>

How should we cope with the economic disparities existing around the world?

<議題設定理由>

GNLFは「将来リーダーとなりうる学生がグローバル・リーダーへと成長できる場を提供し、その後彼らが互いの協力のもとで、良好な国家間の関係を構築し国際的な課題へ対処することを目指す団体」であることを理念としております。

2013年の本会議においては、“グローバル化が進む中、各国において時代に対応した「独自の」「正統な」リーダー・エリート層の育成が不可欠であり急務である”との問題意識から「高等教育」と「エリートの正統性と責任」について議論を行いました。そして本会議の最後には、「エリートは社会に対して良い影響を与えるような判断と行動を行う存在でなければならない」という認識で、参加者全員が一致しました。

以上の2013年度本会議の結論を受け、2014年度の本会議テーマは「格差」に設定いたしました。社会に良い影響を与えることの達成のための手法は当然いくつもあります。しかし、とりわけ格差と言う問題は国家成長という大義名分のもとに抑圧されがちです。エリートの最終目標が献身的な社会貢献である以上、国家の成長と格差の是正の板挟みに苦しみながらも双方を達成する努力を怠ってはならないことは言うまでもありません。社会に出る前にこのジレンマについて考え抜き、そして、その意見を様々な国の参加者とぶつけ合います。将来のエリートを育成する場を提供するGNLFとしてはこの上ない機会を提供できると考え、この「格差」を2014年度本会議の議題に据えることにいたしました。

また、教育格差や医療格差、情報格差など、さまざまな格差が存在する中、今回はあらゆる格差と密接に関わっている「経済格差」に着目します。各国の国内における所得格差はグローバル化の進行とともに拡大していると言われていています。1995-2007年においては、OECD加盟国の31カ国中19カ国において地域的な格差が拡大しているといわれており、この傾向は2008-09年の経済危機以降、より強くなっています。

国内格差に加え、国家間の格差も同様に拡大しています。1800年時点での国家間格差（最も裕福な国と最も貧しい国における所得の比率）が3対1であったのに対し、1992年時点では72対1に拡大しました。1990年頃からは、新興国・開発途上国の一人当たりの所得の増加が先進国のペースを大きく上回っていますが、これは多くの場合、上位の所得層が稼得する所得の劇的な上昇によるものであり、最貧国の中には、何百万人も所得水準が1世紀以上ほぼ停滞している国も存在しています。

これらの傾向は2014年本会議を開催するブルガリアも例外ではありません。1989年に社会主義から民主主義、市場主義化を行い、そして2007年にEUに加盟することで、首都ソフィアにはドイツなどからの直接投資が集まるようになりました。農業生産が中心の北西部などでは、その恩恵を享受することなく所得水準がほぼ変化していない状況にあります。またIMFが発表している各国の経済の実質成長においても、ブルガリアは187カ国中144位（2012年現在）と、似たような状況にあるルーマニア（145位）とともに低い経済成長水準にあり、「ヨーロッパ最貧国」という位置を抜け出せずにいます。

以上のような現状を鑑み、2014年本会議では、参加者が「判断し、行動することのできる」リーダー／エリートに近づくために、以下の2つのことを達成することを目標とします。

1つ目は現在世界各地に存在する格差がどのようなものであるか、自分とは異なる国々においてどのような格差問題が存在するかについての理解を深めることです。本会議の参加国には、国連が2000年前後に行ったジニー係数による格差ランキングでは上位に位置する南アフリカ（4位）やブラジル（8位）、また比較的格差が小さいスイス（120位）、また1人あたりの所得と格差の相関関係を示すグリネットスの逆U字曲線上のさまざまな点に位置する国々が集まります。各参加者の格差や平等に対する考え方や、問題意識が異なるかもしれません。その中で、「格差とは何なのか」「格差はどこまで容認すべきか」という抽象的な議論や具体的な事例を通して意見を交換することで、各参加者の格差に対する考え方が深まることを目標とします。

2つ目は、1点目にあげた、世界に存在する格差の実体や格差に対するさまざまな考え方を理解した上で、実際に将来リーダーとなった際にどのように格差に向き合うべきかを考えることです。具体的には、今後ますます増えると予想される地域統合や地域貿易協定などの際に国家間及び国内の格差をどのように考慮すべきか、また国際的な合意や取り決めを行う際は、しばしば国家間の格差が妨げになりますが（例えば、WTOのDoha Round

や温暖化防止のための CO₂ 排出量に対する取り決めなどがあげられます)、このような格差を乗り越えて合意にいたるまでには何が必要か、などといったことを参加者に考え、話し合ってもらいたいと思います。

2010年にGNLFが本会議を開催して以来、今まで「資源」「ガバナンス」「教育」という3つの分野について取り扱ってきましたが、「格差」というこれまでとは違った切り口から2014年の大テーマを設定しました。しかしこれまで述べてきた通り、GNLFが2014年本会議において「格差」を取り扱うことは、現在の国際社会やブルガリアという開催地、GNLFの特色を考えても、大いに意義のあることだと考えています。

<スケジュール>

(すべて2013年4月18日現在のもので、変更になることがあります)

◆Day1 (8/17 Sun.)

- ・参加者順次到着、ソフィア空港発 (シャトルバスによる移動)
- ・16:00 宿泊施設到着
- ・17:00~19:00 開会式・懇親会 (立食形式)
- ・19:00~20:30 アイスブレイク

◆Day2 (8/18 Mon.)

- ・07:00 起床
- ・08:00~ 朝食
- ・09:00~ セッション1: 「格差」とは何か、「平等」とは何か
- ・12:00~ 昼食・休憩
- ・13:30~ セッション2: グローバル化は格差の縮小に貢献しているか
- ・19:00~ 夕食
- ・20:00~22:00 文化交流会

◆Day3 (8/19 Tue.)

- ・07:00 起床
- ・08:00~ 朝食
- ・09:00~ 半日観光出発
- ・14:00~ 学生によるプレゼン: 私たちの国における経済格差
- ・19:00~ 夕食
- ・20:00~ グループワーク

◆Day4 (8/20 Wed.)

- ・ 07:00 起床
- ・ 08:00~ 朝食
- ・ 09:00~ セッション 3 : 発展途上国や小国が先進国・大国に追いつくための政策
- ・ 12:00~ 昼食
- ・ 13:00~ シンポジウム
- ・ 19:00~ 夕食
- ・ 20:00~ グループワーク

◆Day5 (8/21 Thu.)

- ・ 07:00 起床
- ・ 07:30~ 朝食
- ・ 09:00~ セッション 4: より平等な世界のために国際機関が果たせる可能性(前半)
- ・ 12:00~ 昼食
- ・ 14:00~ セッション 4: より平等な世界のために国際機関が果たせる可能性(後半)
- ・ 19:00~ 夕食
- ・ 21:00~ グループワーク

◆Day6 (8/22 Fri.)

- ・ 07:00 起床
- ・ 07:30~ 朝食
- ・ 09:00~ 宿泊施設発
- ・ 09:00~21:00 終日観光

◆Day7 (8/23 Sat.)

- ・ 07:00 起床
- ・ 07:30~ 朝食
- ・ 09:00~ セッション 5
- ・ 12:00~ 昼食
- ・ 13:00~ グループワーク発表
- ・ 18:00~21:00 閉会式
- ・ 21:00~ 自由時間

◆Day8 (8/24 Sun.)

- ・ 06:00 起床
- ・ 各国参加者、順次帰国

6. セッション概要

(すべて 2014 年 4 月 18 日現在のもので、変更になることがあります)

【セッション 1】 <「格差」とは何か、「平等」とは何か>

目的

GNLF には様々な文化や歴史、慣習、価値観などを持った国からの学生が集まる。

その中で、1 週間「格差」という話題について議論を始めるためには、お互いが「格差」ということに対してどのような捉え方をして、どのような問題意識を持っているのかを共有する必要があり、このセッションを本会議全体の中の「導入」という位置づけで設定した。

また最初のセッションであることで、ケースごとに班を入れ替え、最初に簡単な自己紹介を行うことで、その後のプログラムにおいてもより活発に議論や交流ができるようにはかった。

概要

学生に「格差」とは何か、またその対局にある「平等」とは何か、「機会の平等と結果の平等どちらが大事か」といった哲学的な問題について、参加者が 6 人程度の班に分かれて意見を交換してもらう。

その際には、例えば参加者が会社経営者であることを想定し、ある条件において社員に対する利益の配分をどのように配分するか、実際に行われたことのある国策などについてどのように考えるか、など具体的なケースを 3～4 つ準備する。

現在の想定では以上のものについて、事前に運営側が準備した寸劇もしくは映像によって、議論の前にケースを説明する。

【セッション 2】 <グローバル化は格差の縮小に貢献しているか>

目的

GNLF の目的は、「未来のグローバルなリーダー」に必要な能力を養うための場を提供することである。

そして、「未来のグローバルなリーダー」に求められる要素の 1 つとして、当たり前ながら「グローバル化」に敏感に対応する力があるだろう。

「グローバル化」は通常肯定的な文脈で語られる。このような国際会議を学生が主催できるようになったのも、「グローバル化」の恩恵と言えるだろう。しかし、グローバル化は負に作用する場合もあり、その典型的な例が「格差の拡大」である。

今後ますますグローバル化が進行すると考えられる中、将来リーダーとなることが期待される参加者には、いかに格差の拡大を最小限に押さえ、さらには格差を縮小していける能力が求められる。

概要

近年、所得格差が拡大していると言われる理由としては、技術革新の進行など主要な要因がいくつか存在するが、「グローバル化の進行」もまた市場を不均衡にし、格差拡大の原因となりうるといわれている。

このセッションでは、「国家間での経済格差」と「国内の所得格差」2つの観点から「所得格差の拡大」について取り扱う。

世界全体をみれば、グローバル化により国際的分業が可能となったことで、生産コストが低い発展途上国・新興国に製造業が移行し先進国の雇用が失われ、結果的に発展途上国・新興国の賃金が上昇し先進国の失業率が上がり、先進国と途上国の格差が縮小する「大収斂」が起こっている。また、この際国内では理論上は先進国においてはホワイトカラーとブルーカラーの間の格差が拡大し、新興国では雇用の大規模な創出によって格差が縮小する。しかし、この構図が必ずしもどの国において当てはまっている訳ではなく、アメリカ・日本・ヨーロッパといった先進国のみならず、発展途上国のほとんどの国においても所得格差が拡大している。また、東南アジアやアフリカの国々の多くは、発展から取り残されている。

グローバル化によってどのような側面・理由で所得格差が拡大もしくは縮小しているのか、そしてどのような国がその恩恵を得て、どのような国が損失を被っているのかについて、具体的な国のケースを交えながら、理論と現実の双方について考えていく。

【セッション3】<私たちの国における経済格差>

目的

セッション2においては、格差拡大・縮小のメカニズムを「グローバル」な視点から取り入れたが、このセッションにおいては、多種多様な国から参加している学生たちが、お互いの国の内部においてはどのような状況にあるのかを理解することを目的としている。

各国の参加者は、この発表を事前に準備することを通して、何よりも自分の国における現状を知ることができ、格差についての理解も深まることで、他のセッションにおいてもより充実した議論ができると思われる。

また、このGNLFに参加する国の中では、学生2名が異なる大学や学年、学部から参加する国があるが、本会議への参加以前に互いのことを知っていることは本会議の充実のためには不可欠であるため、このプレゼンテーションの準備を通して信頼関係を築くことを期待する。

概要

各国からの学生参加者に、1カ国ずつ「**Economic Disparities in Our Countries**(私たちの国における経済格差)」という題名での10分前後のプレゼンテーションを準備してもらう。

プレゼンテーションの内容としては、

- ① 自国における経済格差の特徴・構造

- ② どのような理由・経緯によって格差が生まれたか（歴史的・文化的・制度的）
- ③ 近年における格差の動向（拡大しているのか・縮小しているのか）
- ④ 格差縮小のための、政府・民間団体の活動
- ⑤ 学生自身の見解

の 5 点を含むように事前に指示し、そして本会議の前に運営側からフィードバックなどを行う。

各国のプレゼンテーションの後は、10 分ほどの質問時間をもうけ、発表者はプレゼンテーションに関する質問を、他国からの学生・教授から受け答える。

【セッション 4】 <発展途上国や小国が先進国・大国に追いつくための政策>

目的

先進国とのその他の国々との間の格差は、前に述べた「大収斂」によって縮まっている。しかし、この構図が当てはまるのは、豊富で安価な労働力を持った中国やインドといった国々であり、人口・国土の小さな国は発展から取り残されているのが現状である。

このセッションにおいては、参加者に対して「国家間の経済格差」という問題にどのように向き合うかについて考えてもらう。

概要

国と国の間に存在する格差縮小のため、国家としていかなる政策をとりその差を縮小させていくか、「ニッチ戦略の可能性」に重点を置いた講演を、ソフィア大学の教授を招き行う。また、この際に取り扱う「ニッチ戦略」とは、1つ1つの企業が行いうる政策ではなく、一国がある「隙間産業」に特化し産業優遇政策のみではなく、教育などの分野についても一定の産業において優位に立てるように政策を進めることである。

講義の際には、実際にニッチ産業を通して成功を収めた国に着目することでその可能性を知るのみではなく、そのリスクについても言及しながら、ニッチ産業の全体像を把握できるように考慮する。

その後、ある国を想定し（仮想国にするか具体的な国を割り振るかは未定）、今の世界にある「ニッチ」が何なのかを考えた上で、具体的に 1 つの政策を想定し、それを成功させるためにはどの分野において、どのような政策を進めていくべきかを、学生同士がグループ（1 グループあたり 6 人程度を想定）を作って考える。

【セッション 5】 <より平等な世界のために国際機関が果たせる可能性>

目的

これまでのプログラムにおいては、「国家」という枠組み内で、「国家間の経済格差」と「国内の所得格差」をどのように解決できるかについて着目してきた。

しかし、このセッションでは、「国家」という枠組みを超えた取り組みについて着目するこ

とで、新たな視点・可能性を参加者に提供する。

概要

国際機関というアクターが、如何に国際社会に存在する格差の縮小に貢献することができるか、その可能性や問題点について国際機関に所属する方から講演して頂き、その後学生によるディスカッションを行う。

国際機関として現在想定している1つが「ヨーロッパ連合（EU）」である。EUでは近年、ドイツなどの経済大国が圏内の経済危機に陥ったときに経済支援をしている。また経済統合によって、今まで発展から取り残されていたようなEU圏内の地域にも西ヨーロッパの投資が集まるようになっており、ヨーロッパにおける経済格差縮小のために、EUが一役買っている側面がある。

講演には、ヨーロッパ連合議会の議員であったブルガリア人を講演に招き、EUが格差縮小のために果たしている役割を説明してもらうとともに、EUにとって圏内の経済格差を解消することにはどのような意味があるのか、そしてそのインセンティブについて講演の中で述べて頂く。

7. 体制（協賛・助成・特別後援・協力・後援）

（前年度実績）

【協賛】

三井物産株式会社
三菱商事株式会社
住友商事株式会社
豊田通商株式会社
株式会社グロービス

【助成】

独立行政法人国際交流基金
公益財団法人双日国際交流財団

【特別後援】

一般社団法人日本貿易会
民間外交推進協会(FEC)
読売新聞東京本社

【協力】

株式会社ジョブウェブ

【後援】

外務省
株式会社ローソン
国際協力機構(JICA)
在日インド大使館
在日キルギス共和国大使館
在日チュニジア共和国大使館
在日エジプト・アラブ共和国大使館局
駐日ブラジル大使館
日本公文教育研究会

8. 2014年度グローバル・ネクストリーダーズフォーラム学生本部 役職一覧

| 役職 | 氏名 | 所属 |
|-------------|------|----------------------|
| ・会頭 | 高橋遼平 | 東京大学法学部 3年 |
| ・事務局長 | 渡丸慶 | 東京大学教養学部 3年 |
| ・パートナーシップ局長 | 市原拓也 | 東京大学工学部 3年 |
| ・メンバーシップ局長 | 吉越文 | 東京大学経済学部 3年 |
| ・プログラム局長 | 鵜澤和志 | 東京大学教養学部 2年 |
| ・広報担当 | 神田朱莉 | 東京大学教養学部 2年 |
| ・財務担当 | 齋藤大斗 | 東京大学教養学部 2年 |
| ・総務担当 | 森山剛志 | 東京大学工学部 3年 |
| ・顧問教授 | 遠藤貢 | 東京大学大学院 総合文化研究科教授 |
| | | |

※顧問として、ファウンダー・森下裕介、初代事務局長・谷口大祐が運営委員会に助言・指導を行います。

8. 連絡先一覧

2014 年度 学生本部所在地

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-6 アトラスビル 6 階 IBIC 本郷内

公式ホームページ <http://gnlf-web.p2.bindsite.jp/>

メールアドレス gnlf-hq@g-nextleaders.net

GNLF に関する総合的なお問い合わせは・・・

事務局長 渡丸慶（東京大学 3 年）

tomaru@g-nextleaders.net

国内・国際渉外に関するお問い合わせは・・・

パートナーシップ局長 市原拓也（東京大学 3 年）

ichihara@g-nextleaders.net